

2024

5/31 金
14:00~16:00

<謡とお話の会> 入場料3,500円 (仕舞・お話有)
素謡 **定家** 上田 拓司・浦田 保親

10/6 日
14:00~15:30

<青涼能> 賛助金4,000円
能 **桜川** シテ 上田 顕崇
ワキ 江崎欽次朗 他
笛 野口 亮 小鼓 古田 知英
大鼓 大村 滋二

11/28 木
14:00~15:30

<木曜会> 入場料3,500円 (仕舞・お話有)
素謡 **三輪** 吉井 基晴・上田 拓司



瓦照苑 青涼会

令和
6年度

のお知らせ

会場

夙川能舞台

瓦照苑

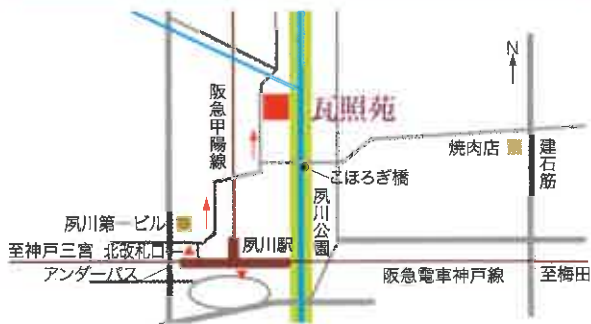
2025

2/24 月祝
14:00~16:00

<舞囃子の会> 入場料3,500円 (お話有)
舞囃子 **老松** 上田 顕崇
舞囃子 **船弁慶** 上田 嶺貴
笛 貞光 智宣 小鼓 高橋奈王子
大鼓 山本 寿弥 太鼓 中田 一葉
舞囃子 **清経** 上田 宣照
舞囃子 **弱法師** 上田 拓司
笛 貞光 智宣 小鼓 上田 敦史
大鼓 山本 寿弥

3/6 木
14:00~15:40

<木曜会> 入場料3,500円 (仕舞・お話有)
素謡 **屋島** 上田 拓司・吉井 基晴



● 阪急神戸線 夙川駅(北改札口)徒歩2分

〒662-0063 西宮市相生町10-11
TEL.0798-55-7362 FAX.0798-55-7363
メール terasu@kanshou.com
ウェブサイト <https://kanshou.com>



各公演とも、ご予約にて定員に達しました場合、以降の受付および当日でのご入場をお断りする場合がございます。ご予約がお決まりになりましたら、お早目のご予約をお願いいたします。

※照の会の会員様は
各公演とも各500円割引にてご入場いただけます。

※開場は各公演とも30分前です。
※表記の終了時間は予定です。
※都合により演者等が変更になる場合がございます。

主催:夙川能舞台 瓦照苑(一般社団法人 瓦照苑)
後援:西宮市・西宮市教育委員会・公益財団法人 西宮市文化振興財団

古来より普く芸能は、三熱に苦しむ神の心を涼しめる物 ——

また、常緑の松は四季を通じて尚、青々とし、能舞台に描かれた老松は、能楽そのものです。夙川能舞台瓦照苑では、素謡、舞囃子、能を通して、眼前に広がる夙川公園の青松の如く、皆様の心にほっとした一息を、涼しいひとときを過ごしていただけることを願います。

長く受け継がれてきた美しい「^{ことば}詞」、その情景、心情を声のみで表現。

素謡 —— <謡とお話の会> <木曜会>

素謡とは、囃子や舞を伴わず、謡のみで上演する演能形式です。当会では、囃子を用いず能の曲の舞の一部を上演する仕舞と、演目についての解説があります。

演者を”楽しむ”...
際立つ舞い手の個性と技。

舞囃子 —— <舞囃子の会>

舞囃子とは、能の曲の舞所だけを取り出して、シテが地謡と囃子をまどって舞うものを指します。能面・装束はつけず、紋付袴姿で舞いますが、それゆえ舞い手の個性や技が際立ちます。<舞囃子の会>では、舞囃子を、演者の解説とともに楽しみたいだけます。

囃子、装束、^{おもて}面 ——
能舞台に映る室町からの物語

能 —— <青涼能>

能とは、能楽の一番本格的な上演の形です。登場人物は皆、能装束を付け、囃子、地謡に囲まれた空間で、謡や舞を通して、一曲に込められた物語をご覧ください。

なお席数に限りがございますので、要事前予約とさせていただきます、定員になり次第受付終了とさせていただきます。



演者による曲目解説もごございます。

夙川能舞台 瓦照苑について...

広い世代の方々に、
能をもっと、親しく知っていただきたい。

瓦照苑は、風光明媚な地、夙川を拠点とし青涼会はじめ、演能や講演、稽古など、さまざまな活動を行っています。

能は、室町時代から現代まで続いている舞台芸術で、ユネスコの「無形文化遺産」。約650年もの間、一度も絶えることなく人々の心を捉えてきた能に触れる機会を、ぜひともお持ちいただきたいと願っています。

源平合戦の激戦地、讃岐国・屋島浦で、旅の僧らに宿を貸した老漁師の正体は源義経の霊。夜、僧の夢枕に現れた義経の霊は、合戦の様子を語り、修羅道の苦患を現する。

3/6
素謡「屋島」

老松の精が御代を言祝ぐ「老松」、戦争に追い詰められて入水した公達の心の内を描く「清経」、盲目ながら杖を手にして景色が見えると狂い舞う「弱法師」、平家の武將の怨霊として大長刀を振るう「船弁慶」。色とりどりの四曲をお愉しみください。

2025
2/24
舞囃子の会

毎日お供えに来る女が、夜寒をしのぐ衣を僧に乞い、杉の門を目印に訪ねるよう言って去る。僧が訪ねると、女姿の三輪明神が現れ、天の岩戸の神話を語り、その様を再現する。

11/28
素謡「三輪」

人買いに我が身を売った幼い息子「桜子」を捜す旅に出た母。放浪の間に狂乱した母は、桜の名所「桜川」にて狂女となっていた。散りゆく桜花に桜子を重ね、身の上を舞い語る。その様を面白がる見物人の中に、狂女をじっと見つめる子どもがいて...

10/6
能「桜川」

ここは藤原定家の「時雨亭」であると教えた女。旅の僧を式子内親王の墓に案内し、石塔を覆う葛が定家の執心だと告げ、自分こそ内親王の霊だと明かして姿を消す！。

2024
5/31
素謡「定家」